

瑞雲

直方鉄工青年会 第41号

会長就任に当って

20代会長 浅田 毅



昭和47年、直方鉄工青年会に入会して、早や12年になります。本年度会長に任命され、20年の節目とし、責務の重大さを痛感致しております次第でございます。

この間10周年、15周年とそれぞれの記念行事も経験

してきましたが、それ以上に直方鉄工界の移り変わりを肌で感じてきたおもいでございます。好、不況の荒波もともかく、技術的な面でも躍進をとげ、あらゆる条件の下で時代の推移を感じております。

私共鉄工青年会も、20年の歳月を経て、他諸団体との交流、市民行事への参加、又中央会等にも積極的に参加し、微力ながらも地域社会の発展に貢献出来る様になってきた気が致して居ります。

昨今の目まぐるしい時代の流出、産業構造の変化に伴い若い私共ですら、技術的、又新製品の出現に対する感覚に追いつけない様な状況です。会員の中にはすでに異業種又新製品の開発を計り計画中の者も居ると耳にしております。そういう新規産業に立ち向うと共に、日中は現況の企業に於て、困難な仕事に真剣に取り組み、そして克服し、又夜は青年活動運営の中にあつて、月に一度の役員会、例会と活発な意見を交換し少しの油断も気のゆるみもない会員を見るに当り、今

光輝く光景を見るおもいです。

私の本年度会長スローガンとしてかかげております「努力、熱意、誠意」は（全ての事に会員全員が一丸となって努力をし、熱意を持って誠意に務める）と云う意味のものであります。そうする事によって、この不況もおのずと克服出来、又明日への意欲もわいて来るものと信じています。

鉄工青年会も20年を迎え20周年記念式典、特別事業等を完全に成功さすべき、会議打合せを重ね準備段階に入っていますが、あくまでも20年にこだわらず、25年、30年に向つての踏台と感じております。

時代の流れと共に青年会も変わりつつありますが、企業に於ても青年活動に於ても、限りなき将来に向つて後継者として会の再認識、再確認をし先輩達の造りあげた会の伝統を守り、やすらぎと毅然さの中にも練磨研修の場として確固たる「直方鉄工青年会」を創り上げる必要があるものと思います。

現在51社、54名で運営となっておりますが、いままでの先輩歴代会長の後を継ぎ、不安と希望と夢の中、暗中模索でのスタートになりましたが、幸にも覇気ある3人の副会長と、すばらしいスタッフ、20周年のプロジェクトチームとのメンバーにめぐまれ、着々と進む事業計画、遂行に、会及会員の良点を見い出したおもいでございます。

最後になりましたが、本年度行事及20周年事業に会員全員が一つとなつて参加し協力載きます様願いますと共に、直方鉄工界関係各位様にいままでも御支援のお礼を申し上げます、今後より一層の御指導を承ります事をお願い申し上げます。

《スローガン》 { 努力・熱意・誠意
初心、原点にもどりさらに前進

一年を顧みて

直前会長 村井 武久



振り返ってみれば短い一年間ではありましたが、この間大過なくすこせました事は、役員はじめ皆様方の御協力のおかげと、深く感謝致しております。

五月の最初の例会である企業対抗ソフトボール大会で、私の社員が足の骨折事故を起した時は、前途多難を思わせましたが、その後は順調に進みました。

その間会員の結婚や、新築祝、赤ちゃんの誕生等、おめでたい事が続き、又各委員会の行事も活発に行なわれ、私にとっては本当に有意義な一年間でした。

会長として対外的にも出席する事が多く、その為、多数の方々を知り合う機会に恵まれた事は、会長職ならではの、つくづく感じております。又、各委員長をはじめ、若い役員の方と話し合ってみると、委員会活動を通じて青年会を前進させようとする心意気は、私自身にとっても大いに勉強になった次第です。

この事は、企業経営にとっても、大いに参考にしなければなりません。会長職を去っても若い会員と大いに語り合い、今一層の努力をする覚悟です。青年会の会長は、一生に一度のチャンスです。どうか全会員の皆様一人一人が会長をみざして、会の発展の為にお互い努力していただき、今年二十周年の記念の年を担当する浅田会長に、絶大な御支援をたまわらん事をお願い致します。一年間本当にありがとうございました。

今年度各委員長の声から



今年度の抱負

事務局長
得居 慎一

国内景気はゆるやかに、

回復基調に入っていると、マスコミは報道して居りますが、我々を取り巻く環境には、なかなか明るい材料は見つかりません。しかし、企業は生きている組織ですから、常に前進しなければなりません。我々会員同士、お互いに情報交換し合いながら、自分達の会社を発展させる様に、努力しましょう。

さて、直方鉄工青年会も昭和三十九年九月に誕生し今年二十周年を迎えます。この記念すべき年に事務局長に任命され、浅田会長に感謝すると共に、その責任の重さを痛感して居ります。

今年度の事務局は、会長、副会長の指導のもとに、監事、直前会長のアドバイスを受け、副事務局長、荻野毅君、会計、吉田一君の三名で力を合せ、常設四委員会、特別委員長、二十周年記念事業プロジェクトチーム間の連絡調整等、さらに会員の皆様に役立てる様に努力したいと考えて居ります。

二十周年の今年度も、二十周年記念式典をはじめ、数多くの事業が計画されて居りますが、会員全員の相互信頼をもとに力を合せ、各事業を成功させ、さらにこの事をジャンピングボードにして、不況を乗り越えましょう。

最後に、今年一年、愛される事務局を目指して頑張りますので、会員皆様の御支援を、よろしく願います。



会員への要望

総務委員長

田島 悦朗

私が入会して十一年になりますが、初めて総務委員長を経験させていただき、非常に感謝しています。それというのも私が青年会に入った当時は、人前で話しをするのがとても苦手で、非常に困ったものでした。しかし今では、一生懸命働いて遊ぶ時も、一生懸命にやれるようになりました。

このごろ、若い会員や新入会員の中には、月に一度の例会に来て、ただ弁当を食べて話を聞いて帰るといえば、ワンパターン化の傾向になりつつあると思うのです。そういうことで会員を、一人でも多く例会に参加してもらって、自分自身の為に努力してもらいたいと思います。そこで総務委員会として例会の終了前十分～十五分の時間をいただいで、ふだんあまり

発言の少ない会員に対して、大いに発言していただきたいと思います。

どうか皆さんこれは、今年一年で終るのではなく、これからも永久に総務委員会の恒例の事業として、ぜひ実現させたいと思います。



私の抱負

広報委員長

金谷 保

今回、私が端雲に記載させていただくのは、たしかこれで三回目だと思います。そのたびに「テーマ」を何にしたらよいか、「アレコレ」思案に迷ってきました。

今年度は、鉄工青年会20周年の時期にあたり、はからずも広報委員長の役を指命され、如何に大役を果せるかいささか不安めいた気持です。

幸い昨年の副委員の経験を生かし、少しでも会の運営の役にたてたならと、皆様の指導を仰ぎながら毎日を何とか頑張っています。

鉄工会は相変わらず不況の中で、今後如何にして生きぬくか、会員の皆様各自の専門的な立場から種々対策をたてられると思います。情報化時代に、かつてのはなやかな夢は、捨てなければならぬのは勿論、常に新しい技術に対して、前向きに努力してゆかなければならないと思っています。

二十周年記念行事を迎えるに当たり、過去の記念をふり返る一方、今後鉄工界の進み方に対し、新しい確かな軸を見出さなければなりません。

この大事な時期に当たり、多少なりとも視野を広げて委員長としての任を全うしたいと思っています。



父親として

厚生委員長

高倉 堅

昭和二十三年十一月七日この世に「オギャー」と第一声をあげてから、三十五年今年三十代後半に入るにあたって、自分の生きてきた

この三十五年間をふり返って考えてみることにした。

黄だんで生死の境をさまよった十才、遊ぶことにいきがいを求めて過ごした小、中学時代、思い出そうとしても心に残っていることの少ない高校時代、煙草のおいしい味、資金かせぎの為のパチンコ、十二時間連続徹夜のアルバイト、新入生歓迎コンパで飲めぬ酒を飲まされての帰途、鉄条網にぶっかった時のあの痛み破れたズボン的一张羅のおしき、とにかく思い出すことの多い大学時代、私の青春時代であった。

卒業後親の管む会社に就職、週休四日制にせざるをえなかった昭和五十年の大不況、三回の不況を経験して今日まで十三年目。

青年会に入会して三年目。多くのユニークな先輩諸氏にめぐり会えた。

結婚して十一年目、二男一女の子の父親となった。最近「子どもの非行化」のニュースを耳にするたびに三人の子をもつ親として、子育ての大切さを感じる。人間生活の一番の土台になる家庭、家庭の中での親と子のふれあい、対話、だんらんをいつも欠かさないようにしなくてはいけないと思う。その為、私は三人の子と必ずといってよいほど、入浴を共にする。スキンシップをするのである。この時にいろいろ話が飛び出す。勉強のこと、遊びのこと、給食のことなど、小さな湯ぶねにびったりと体をよせ合って、からかって長女を泣かせたり、兄弟げんかをしたり、にぎやかだが、できる限り、続く限り、守っていきたいと思っている。

時折、長男に私のしぐさのよくない面をみることもあり、どきっとさせられる。「親の姿をみて子は育つ」といわれるように、子は知らぬまに親のすることをよくみている。

努めて、よい父親になろうと決心するのである。



新年度に

あたって

経営委員長

幸田 良一

まだまだ暗いトンネルの中を走っている鉄工業、しかも今年は、二十周年を迎える青年会、この大切な時期に、経営委員長として指命されました事は、極めて責任重大で、何とか御期待にそえる様頑張りたいと思

っております。

今年、委員長として、鉄工界の現状を鑑み上で「鉄で喰っていけるか。」をメインテーマにし、各企業で物の見方、考え方を換え、時代に適応する企業のあり方を見直さなければならない過度期に来ていると判断しています。

特に、我々青年会がもっと直方の鉄工業界の現状を把握し、多種多様なデータを集積しかつ分析して、情報群を利用しながら、この苦境を脱却する必要があるのではないのでしょうか。

さて、事業計画と致しましては、経験豊富な先輩とのパネルディスカッションを行ない、経営の感覚をさらに違った角度から、身に付けていただきたい。次に我々は常に、向学心を持たなければならないという点から、直方から出来る中小企業大学の内容および利用方法を調査研究し、従業員を含んだ所のレベルアップを実施しようと思っております。

また、工場見学(場所未定)をして、無駄を排除し、改善する所はないか見ていただきたい。最後に青年会のチームワークの一環として全員参加による奉仕事業を考えております。その節はみな様方の御協力をよろしくお願い致します。

とにかく、企業は利益の追求が原則ではありますがまず企業の直直しをいかにやるかを、この一年間考えてやって行きたいと思っておりますので、よろしく御理解と御協力を節にお願い申し上げます。



『創立20周年 を迎えるに あたって』

20周年実行委員長
石松 徹也

皆さん御存知の通り、今年度私達鉄工青年会は創立20周年目を迎えます。一口に20周年と申しますが、私達が20周年を迎えられるのは、行政を含めた地域社会の方々、諸先輩、会員企業の従業員並びに私達の家族のお陰だと思います。鉄工青年会は、諸先輩の実績と会員の努力によって、外部からの期待も年々大きなものとなり、一方、他団体との交流も広がってまいりました。

近年、創立当時から在席された会員が次々に卒業され、もうすぐ全員卒業されてしまう時期に、鉄工青年

会が20周年、いわゆる成人式を迎えるのは、大きな節目と言えるでしょう。

いま私達の置かれた経済環境は、過去に経験したことのない非常に厳しいものですが、関係各位をお迎えして、私達の感謝の気持を表わすと共に、現在の私達の姿を知っていただく良い機会だと思います。

20周年の意義を充分踏えて、効率の良い、有意義な創立20周年記念にし、新しい出発点としたいと考えますので、是非皆さんの御理解と御協力をお願いしたいと思います。

事業報告

直方鉄工青年会通常総会

4月21日(土) P.M. 4:30 陵江会館

審議事項

- 第1号議案 昭和58年度事業報告承認の件
- 第2号議案 昭和58年度決算報告承認の件
- 第3号議案 昭和59年度事業計画承認の件
- 第4号議案 昭和59年度予算案承認の件
- 第5号議案 昭和59年度基金取崩承認の件



企業対抗ソフトボール大会

5月20日(日) AM 8:00~

直方市民球場

五月晴れの中、17チーム(鉄工青年会を含む)により、今年作られた真紅の優勝旗争奪戦がトーナメントで行なわれました。

優勝戦は、田中信鉄工所、石橋製作所の間で行われ、

12対9にて昨年惜しくも優勝をのがした田中信鉄工所が優勝旗を手に入れました。



厚生委員長高倉君、青年会の方々おつかれさまでした。



昭和59年度 直方鉄工青年会事業計画

区分 月	総務委員会	厚生委員会	経営委員会	広報委員会
4	通常総会			
5	例会	企業対抗ソフトボール大会(例会)		端雲(No.41)発行
6	例会		経営セミナー(例会)	ボウリング大会
7	OB合同例会・委員会 バレーボール大会			
8	例会	家族ピクニック		
9	例会		経営セミナー(例会)	
10	20周年記念式典 (例会)			20周年 記念誌発行
11	例会	研修旅行		
12	例会	忘年会(例会)	工場見学	
1	新年例会			端雲(No.42)発行
2	通常総会			
3	例会		※現役会員の討論会	夫婦同伴例会
その他			※社会奉仕事業	



お子様誕生

昨年11月10日に、次女が誕生した。私も3人の父親となった。これで我家は6人家族となり、3人の子供達で毎日実に賑かである。

全く偶然とは言え、次女は私の亡父と誕生日が同じである。心優しい女の子となってくれる様「佳代子」と命名した。裕子、義久伴々、人の道から外れる事なく、健康で、幸福な人生を送ってくれる事を願っている。

倉田 義重



【父親ゆずりの美女に育って…佳代子ちゃん】

新入会員紹介

(株)佐藤製作所



佐藤 吉則

青年会の皆さん、よろしく!!

鉄工青年会の皆様こんにちは、各位におかれましては、増々ご健勝のことと、お喜び申し上げます。

さて此度、当誌への寄稿のお話しを受けましたのでこの紙面をおかりし、私の

自己紹介させて戴こうと思います。

小生、当直方市で昭和24年12月10日、父佐藤数馬(株式会社佐藤製作所 社長)の二男として生まれました。幼年時にはバッチンやビー玉遊び、またコマ廻しやチャンバラごっこ等々、楽しい思い出が今尚残っております。平和幼稚園に通い、南小学校に入学し、1年間在学致しましたが、父が博多に家移したことで2年生からは福岡市警固小学校に転校致しました。その後、警固中学校、修猷館高校を卒業し、1年間浪々の身を経た後、早稲田大学に進学致しました。

このように少年期、青年期を福岡と東京で過したため、その間における直方のイメージは、何度か福智山に登った時のこと位しか、思い出にありません。

昭和48年に大学を卒業したわけですが、頃はまさに高度経済成長の真眸中「すぐに帰って手伝え!!」の鶴の一声……それから3年間は、初めて着る作業服を汗

と泥で真黒にしながら現場作業に没頭しました。今年でもう入社して11年目になりますが現在は、営業、資材関係の仕事を担当し、多忙な毎日を迷っております

唯一の趣味はゴルフです。胸一杯新鮮な空気を吸い美味しいビールを飲み、すべてを忘れてカップイン目指し熱中する楽しみは、何回やってもいいものです。ところが腕前の方は、昭和56年4月にホールインワンをした頃をピークに段々と下降気味、今年あたり、もういい加減にスランプ脱出をしなければいかんと、思っています。

何だか、とりとめのない話になりましたが、以上をもって私の自己紹介させていただきます。

最後に、今年で創立20周年を迎える鉄工青年会の栄えある発展を祈るとともに、その推移に、微力を尽させていただきますたく存じます。今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

(株)高瀬鉄工



松尾 武俊

会員の皆様よろしく

このたび、直方鉄工青年会20周年の記念すべき年に入会させていただくことになり、身の引き締まる思いがしております。

20年間の諸先輩方の血の滲むような、御苦労を思い

ます時、私のような若輩者が、はたして、何か一つでもお役にたてるかどうか、不安ではございますが、全力で努力させていただきたいと思っております。何卒会員皆様の御指導を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

福岡県直方市新町3丁目4-18

内藤 博 俊
〒822 電話09492(2)1,322番